

大町通り 界限



上越市指定文化財

1 旧今井染物屋

江戸時代後期に建てられた高田に現存する最大かつ最古の町家建築の一つです。

雁木は古い形式といわれる「造り込み式」で、江戸時代から染物屋を営み、多くの職人や使用人が住み込みで働いていました。

高田のまちでも特に大きな茶の間の吹き抜け空間は、雪国の町家のわりには梁組が細く端正な表情を見せています。令和2年度は改修工事を行っており、令和3年度にパテンレースを主軸とする手仕事を継承・発信する施設として生まれ変わります。

所 大町5丁目5-7
☎ 025-520-5629 (上越市文化振興課)

コラム 下職人町

旧町名の「下職人町」にあたる大町5丁目付近は、明治時代から大正時代にかけて、高田の主要産業であった「繊維業」の中心地でした。職人やその家族・使用人が暮らし、多くの人々の交流があった町です。



2 五ノ辻稲荷神社

高田城築城前、この場所に「先代の遺木」と呼ばれた大きな榎の下に「稲荷」の祠が祀られていました。享保年間に伏見稲荷より勧請を受け「五ノ辻稲荷」となりました。

コラム 道幅が開ける大町通り

大町5丁目の通りは、他の通りと比べるとひときわ道幅が広がっていることが分かります。なぜでしょう？江戸中期まで、現在の大町5丁目の通りは、武家町と職人町との境界で両町を隔てる川がありました。江戸後期に武家町を新職人町に改め、境界の川を埋め立てたため道幅が広がっているのです。

3 高田降臨教会(紅葉幼稚園)

アメリカ生まれの著名な建築家ウォーリズが設計した礼拝堂は昭和13年(1938)の建築で、赤いトンガリ帽子型の屋根が特徴的な建物です。



4 旧中央電気(株)本社ビル

(現 東北電力(株)上越営業所)

昭和3年(1928)2月に中央電気(株)本社として建設された建物です。上越地区で初期の鉄筋コンクリート造りといわれており、水洗トイレ、電気暖房など、当時としては最新鋭の近代的な建物でした。



コラム 雪国が育んだ100年産業 パテンレース

パテンレースは、糸を幅1センチほどのテープ状に編んだ「ブレード」と呼ばれる縁飾りで図柄の輪郭を描き、その内側にかがり縫いで模様を施すレース製品です。

高田に伝わったのは明治時代に入ってから。冬期間、出歩くことが困難な雪深い地域で、家の中でできる手仕事として盛んに作られ、高田の一大産業として隆盛しました。

現在、国内でブレードの生産からデザイン、製品まで一貫して製作することを主としているのは、高田にある事業所1社のみとなりましたが、長い歴史を持つパテンレースを守り、次の世代に繋げるための活動を続けています。



5 旧師団長官舎

明治43年（1910）、陸軍第13師団長、長岡外史中将により建てられたもので、市内に残る数少ない明治期の和洋折衷の木造建築物です。

平成3年（1991）までは自衛隊高田駐屯地の幹部宿舎として使われていましたが、平成5年（1993）、明治の貴重な洋風建築の保存のため、現在地へ移築・復原したものです。

令和2年度は改修工事を行っており、令和3年度には建物の趣をいかしたまま、フレンチレストランとして生まれ変わります。

〒 大町2丁目3-30
☎ 025-520-5629（上越市文化振興課）



長岡外史の胸像



1階洋室



2階和室



コラム 陸軍第13師団誘致

明治維新で衰退した城下町高田は、町を挙げて陸軍の誘致運動を起こし、明治41年（1908）11月1日、第13師団の高田入城により活気を取り戻しました。洋服屋・写真屋などの商店や映画館が誕生し、まちは再びにぎわいました。高田の町が第13師団の誘致運動に成功したのは、まちを挙げての誘致運動や、鉄道・電気などが整備されていたことも大きな要因でした。

コラム 高田に縁のある人物

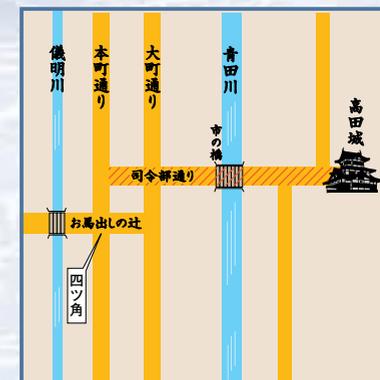
日本にスキーを伝えたレルヒ少佐（P32で紹介）の他にも各国から軍隊の視察にやってきた人たちがいました。後に中華民国の総統になった蒋介石もその一人で、約10か月間、高田に滞在しましたが、祖国で辛亥革命が起こったため帰国しました。また、長岡外史の次の第4代師団長は、司馬遼太郎の歴史小説「坂の上の雲」の主人公の一人で「日本騎兵の父」と呼ばれる秋山好古でした。

コラム 長岡外史（1858～1933）

現在の山口県下松市出身。陸軍第13師団の第3代師団長。ヨーロッパを視察したときにスキーを知り、軍事だけでなく、日本国民の冬のスポーツとしてスキーを導入することが大切だと考えていた外史は、レルヒ少佐にスキーの指導を要請し、軍人のもとより、民間人にもスキーが広まっていきました。スキー普及のほかに、日本の航空の発展にも力をそそぎ、「民間航空の父」ともいわれています。トレードマークの髭は、「プロペラ髭」と言われ、最長で約70cmもありました。

5 司令部通り

城の入口から敵が直接城内に入ってくるのを防ぐため、堀をめぐらせて造った「馬出し」が設けられていました。明治時代、高田のまちに陸軍第13師団を誘致したことにより、旧本丸から西に向かう大手通りが直線道路に造り替られ、その道が「司令部通り」と呼ばれるようになりました。



6 朝市

高田に入城した陸軍第13師団の「兵隊に新鮮な野菜を食べさせたいので、定期的な市が欲しい」という要望により、明治43年（1910）10月に現在の本町2丁目で開催されたのが始まりです。

100年以上続く現在では、大町小学校をはさんで南側に位置する大町3丁目の「二・七の市」と、北側に位置する大町4・5丁目の「四・九の市」が開催され、四季折々の新鮮な野菜や魚介類、花、自家製の漬物などが売られており、地元の人たちだけでなく、観光客にも人気のスポットです。

二・七の市
2と7の付く日に開催
☎ 7:00～正午頃

四・九の市
4と9の付く日に開催
☎ 7:00～正午頃

上越観光Navi
上越の朝市

